

完了報告書（平成 23 年度）

提出者 浅井 歩

提出年月日 2012 年 3 月 30 日

【プロジェクト名】

和文

子育て中の保護者を対象とする科学コミュニケーション

英文

Science communication for child-raising families

【メンバー構成】

研究代表者 浅井 歩

メンバー 磯部洋明、水町衣里、永田伸一、渡邊皓子、羽田裕子

【ねらいと目的】

本研究では「子育て中の保護者」を対象とした研究者による学術講演会を複数回開催し、参加者へのアンケート調査を行う。これにより大学の学術活動のアウトリーチや科学コミュニケーションに対する地域の子育て世代のニーズを調査すると共に、「子育て」をキーワードにした大学と地域社会連携の一つの形として、将来的に京都大学の定常的な事業に発展させてゆくための問題点と最適な方法を探る。

現在、様々な科学研究の広報普及(アウトリーチ)活動や科学コミュニケーション活動が行われているが、子どもを対象とするものはあっても、大人を対象にしてかつ子連れで参加できるものは少ない。一方、福島第一原発の事故後、放射線に関する不安が特に子どもを持つ保護者の間に広がっており、子育て中の保護者を対象にしたアウトリーチ活動の必要性が高まっている。

我々はこれまでも本研究計画と同様の講演会を開催してきた。その結果、参加者からこのような活動への強い要望は確認できたものの、普段インターネットや大学発の情報にアンテナを張っていない子育て中の保護者への周知の方法に課題があることが分かった。そこで本年は、京都府や京都市の教育委員会にも協力頂き、自治体等を通じた広報・周知を行えるよう、教育委員会の方と相談を進めている。また、現在子育て中の女性・男性研究者、あるいは今後子育てをすることになるであろう若手研究員や大学院生に講演者を務めてもらうことで、参加者との交流を通じて地域の子育てや男女共同参画への意識を高めてもらうことも狙っている。

【活動の記録】

私たちは本年度中に、規模や形態を変えて下記の通り講演会を 4 回開催した。

(1) 2011 年 4 月 10 日(日)・子育て中のお母さん・お父さん向け講演会「今、放射線について知っておきたいこと」

場所：京都市子どもみらい館、講師：水野義之(京都女子大学・現代社会学部・教授)

約 70 名の参加者があった。

(2) 2011 年 7 月 8 日(金)・子育て中のお父さん・お母さん向け宇宙講演会「”妊婦と夫による宇宙の話”『宇宙の謎 消えた反物質』『太陽黒点の内部にせまる』」

場所：京都大学・女性研究者支援センター、講師：増田孝彦(京都大学・理・博士課程 3 回生)、渡邊皓子(〃)

3 家族 5 名の参加者があった。

(3) 2012 年 1 月 29 日(日)・子育て中のお父さん・お母さん向け「宇宙箱舟ワークショップ」

場所：京都大学・芝蘭会館別館和室、講師：水町衣里(京都大学・物質・細胞統合システム拠点・研究員)

4家族から申し込みがあったが、直前でのキャンセルが相次ぎ、参加者はゼロだった。

(4) 2012年2月4-5日(土日)・第5回宇宙総合学研究ユニットシンポジウム「人類はなぜ宇宙へ行くのか」
場所：京都大学百周年記念館、講師：柴田一成(京都大学・理・教授)、他
シンポジウムには2日間で延べ約220名の参加があった。託児室利用は、4家族6名であった。

【成果の概要】

我々は昨年度の本研究費にも「子育て中の親を対象とするアウトリーチ活動のニーズ調査」を申請して採択されたが、参加者からこのような活動への強い要望は確認できたものの、普段インターネットや大学発の情報にアンテナを張っていない子育て中の保護者への周知の方法に課題があることが分かった。

本年度は、講演会を4回開催した(平成23年4月10日、7月8日、平成24年1月29日、2月4日・5日)。昨年度と同様、講演会の規模・話題・託児携帯など毎回を変更しながら、複数回開催した。講演会の話題は「放射線」「天文学」「生物多様性」「宇宙」などであった。託児環境を整えることで、参加者は講演に専念でき知的的好奇心に答えることができた。参加者は近隣の住民が多数である一方、遠方から来られる方もあり、その点からも関心の高さがうかがえた。講演会では、それぞれ、約70名、5名、0名、6名(シンポジウム参加者は223名)の参加者があり、講演会や託児サービスへの満足度調査だけでなく情報の入手方法や入手した情報への理解度なども調査した。

本研究で得られたアンケート結果から分かったことの一つに、これらの講演会の参加者は「もともと科学への関心が強い」ということが挙げられる。つまり、これらの講演会などイベントに対し普段から興味を持ち”アンテナ”を張っており、情報を積極的に入手している人が参加したものと考えられる。ただし、「放射線」についての講演会は例外であった。このことから、社会的に大きな問題となっているものをテーマにした場合は、科学にあまり興味が無い層からの参加者が多くなることが分かった。

今後の課題としては、小さい子どものいる参加者に配慮し、季節的・時期的な要素もイベント日程に反映する必要があること(冬場に開催すると、当日キャンセルとなる参加者が多い)、自然科学に対して普段アンテナを張っていない人へのさらなる働きかけの方法を模索することなどがある。

【通信欄】

(研究代表者記入)

プロジェクト	<input type="checkbox"/> 次世代	<input type="checkbox"/> 次世代ユニット	<input checked="" type="checkbox"/> 男女共同参画に資する調査研究
経費	予算額	300 (千円)	実績額 298,102 円



2011年4月10日に開催した講演会での様子(1)



2011年4月10日に開催した講演会での様子(2)

講演会会場の後ろにお子さん達が遊べるスペースを確保し、時々お子さんの声が広がるなかで和やかに開催されました。

一方で、講演内容は「放射線」ということで、参加者のまなざしは真剣です。



2011年7月8日に開催した講演会での様子

女性研究者支援センターで小さなお部屋で親子同室での講演会です。

小規模での講演会で、たくさんの質問が出て、和やかに、かつ濃密な懇談ができました。